

## 第4期経営改革実施計画書

団体名	公益財団法人金沢子ども科学財団		計画期間	令和6年度～令和10年度	
設立年月日	平成12年12月27日	基本財産	30,000 千円	市出資額	30,000 千円
	[新公益法人への移行] 平成23年4月1日			市出資割合	100 %
設立意義・経緯	金沢市が児童生徒の課外における科学的な活動などを支援するとともに、その普及・発展に努め、科学の心を育むことを目的とした財団として平成12年に設立。平成23年に公益財団法人へ移行した。				
設立目的	この法人は、金沢市に在住する児童生徒等の課外における科学的な活動などを支援するとともに、その普及・発展に努め、科学の心を育むことを目的とする。				
定款で定める公益目的事業等	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 児童生徒等を対象にした課外での科学に関する活動</li> <li>(2) 児童生徒等の科学の心を育てるための普及啓発活動</li> <li>(3) 科学に関する諸団体や国内外の児童生徒等との交流活動</li> <li>(4) その他公益目的を達成するために必要な事業</li> </ul>				
所在地	金沢市長町3丁目3番3号		所管課	教育委員会学校指導課	
代表者職氏名	理事長 和田 隆志	ホームページアドレス	<a href="https://kodomokagaku.or.jp/">https://kodomokagaku.or.jp/</a>		
設立主体	金沢市	設立根拠	公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律に基づく公益財団法人		

これまでの改革の成果	<p>1 事業面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 新規事業実施や民間企業等との交流による活動内容の充実 おもしろ街中お月見会、中学校サイエンスクラブ発足20周年記念特別研修の開催 金沢テクノパーク進出企業及び日本トライボロジー学会との交流事業の開催 等</li> <li>(2) 効果的な広報活動の展開 長土塀青少年交流センターオープン記念事業の開催 長土塀「絆」交流フェスティバルでの科学・算数教室の開催</li> <li>(3) 全国規模の科学研究作品コンクールにおける入賞者の輩出 自然科学観察コンクール、全国児童才能開発コンテスト、日本学生科学賞 筑波大学「科学の芽」賞 等</li> </ul> <p>2 運営面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 運営体制の強化 財団移転を契機とした活動拠点の集約に併せ、職員間の連携体制を構築</li> <li>(2) 業務のデジタル化と効率化の推進 新型コロナ対策を契機としたホームページ改修による広報機能の拡充と 事業参加申込システムの確立による参加者の利便性向上 オンラインによる講座開催やオンデマンド配信の実施 一部事業の参加費集金等のキャッシュレス化に着手</li> </ul> <p>3 財務面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 外部補助金等の獲得による保有基金(北嶋基金)の取崩計画の延長(10年→20年の予定)</li> <li>(2) 事業参加費収入の見直し 児童科学教室の実習参加費、中学校サイエンスクラブの研修参加費の値上げ</li> </ul>
直面する課題	<p>1 事業面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 事業参加者の確保に向けた情報発信体制の強化</li> <li>(2) 全国規模の科学研究作品コンクール入賞者増に向けた事業内容の充実</li> </ul> <p>2 運営面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 各種事業の実施に必要な指導者や指導補助等の確保</li> <li>(2) 高校や大学等の教育機関、民間企業等との連携協力の推進</li> </ul> <p>3 財務面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 基金取崩終了後の特別事業の継続実施を見据えた新たな財源の確保</li> <li>(2) 持続可能な財団運営を見据えた更なる収入の見直し</li> </ul>

改革の基本的方向性	科学の心を育み、未来の科学者を育てる事業の継続実施に努めるとともに、積極的かつ効果的な広報活動を通じて財団の運営理念を発信し続けることで、より多くの市民に支持される財団を目指す。			
経営目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 参加者の確保と未来の科学者育成強化 事業内容や広報等の情報発信体制の見直しにより参加者の確保を図るとともに、全国規模の科学研究作品コンクール等での入賞者増に向けた事業の充実・強化に努める。</li> <li>2 運営体制の強化 関係機関との連携強化に努めるとともに、業務効率化の更なる推進を図る。</li> <li>3 財団経営の安定性確保 外部補助金や寄附金の更なる獲得に向けた取り組み、事業参加費収入の見直しの検討により、自主財源の確保に努める。</li> </ol>			
改革に向けた取組 (令和6年度～令和10年度)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 参加者の確保と未来の科学者育成強化 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 参加者の満足度向上を図るため、参加者アンケート等に基づき各事業内容の改善に取り組むとともに、ニーズに応じた各種活動を展開する。</li> <li>(2) 科学への興味・関心を引き出す効果的な情報発信体制の強化に向け、広報誌や案内チラシの内容や発行部数を見直し、WEBなどの電子媒体も広く活用した広報活動に取り組む。</li> <li>(3) 全国規模の科学研究作品コンクール等での入賞者増に向け、学年別に開催する各事業の連携を強化し、子どもたちの科学的素養を長期的に支援する枠組みを検討する。</li> </ol> </li> <li>2 運営体制の強化 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各種事業を今後も継続して実施できるよう、指導者や指導補助等の安定的な確保について、協力機関と協議しながら対策を検討する。特に、多忙化が著しい小・中学校の現役教員に対しては、負担軽減に十分配慮するよう努める。</li> <li>(2) 事業の共催や後援などを通じて多くの外部団体との連携を図りながら、活動の幅を広げ、財団の認知度向上と活性化を推進する。</li> </ol> </li> <li>3 財団経営の安定性確保 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 運営の趣旨に沿った外部補助金の獲得に向けた取り組みを推進する。</li> <li>(2) 寄附金の更なる獲得に向け、税控除制度の積極的な情報宣伝を行うとともに、寄附のメリットを高める工夫を検討する。</li> <li>(3) 持続可能な財団運営を見据え、参加費収入の見直しや経費抑制・効率化に努める。</li> </ol> </li> </ol>			
成果指標 (実施計画の達成度を測るための指標)及び目標値等	成果指標	計画策定時数値 (令和5年度末)	計画目標値 (令和10年度末)	
	参加者の確保と未来の科学者育成強化	単発型事業の定員充足率 ※( )内は参加者数	88.6% (3,819人)	100% (4,000人)
		全国規模の科学研究作品コンクール入賞者	1人	5人
	運営体制の強化	外部団体との連携	18団体	20団体
財団経営の安定性確保	外部補助金等の獲得 ※( )内は第3期 R1-5の平均額	1,155,232円 (1,275,383円)	1,300,000円	
	寄附金の獲得 ※( )内は第3期 R1-5の平均額	127,500円 (123,256円)	130,000円	